

売却代金の使途1位は「住み替え資金」 75・4%が査定価格に「満足」

シースタイル

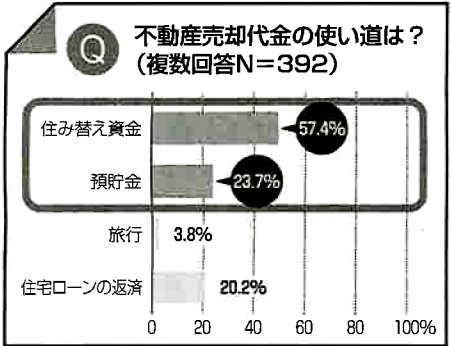
不動産売却代金の使道は「住み替え資金」と回答する人が最も多く、6割近くを占めていた。不動産関連の比較査定サイト「スマイスター」を運営するシースタイル(東京都中央区)が行った調査の結果、明らかとなった。

同調査は、不動産売却の経験または意志がある30～60代の全国500人を対象に「不動産売却代金の使道と、実際の売却事情」について調査を行ったもの。その結果、不動産を売却した代金の使道(複数回答可)の1位は「住み替え資金」(57・4%)、2位は「預貯金」(23・7%)、3位が「住宅ローンの返済」(20・2%)となり、住まいに関わる資金に使う例が目立った。

不動産売買の経験・行動に関する質問では、「売却経験あり」と回答した人のうち60代以上が最も多い53・9%を占めていた。一方、「売却行動・意志あり」と回答した人のうち最も多かったのは50代で35・1%だった。50～60代になるほど売却行動や意欲が高まるといえる結果だが、持ち家の老朽化、退職や家族構成の変化、相続など、さまざまな要因が重なり、新たな人生を見据えて売却に踏み切る人が多い様子がうかがえる。

また、「不動産会社から提示された査定価格への満足度」についての質問では、「満足」が75・4%と大半を占め、希望価格とのギャップが少ないことが分かった。実際の売却金額を聞いてみたところ、「査定額と同じく100万円以内の差」で売却できた人は61・5%に上り、査定額の精度がうかがえた。

「住み替え」目的で売却する人が多いため、予



▶ 不動産売却代金の使道上位3位まで

定期間内で、希望に近い価格で売れるかというバランスも売却の決断を左右しているようだが、期間が価格のいずれかを「妥協した」という声もあった。